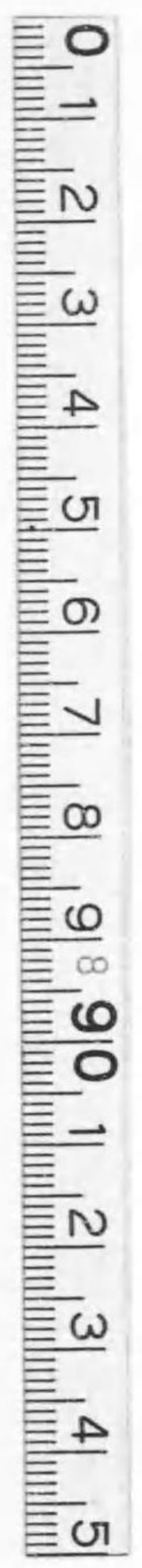


橘千蔭中秋帖

301-7



1200501367196



始





橘

千

蔭

中

秋

帖





八月十五夜陪客

師西歸月之三日

賦植年三乙夕

紀綱言

八月十五夜看者天
至海月之明之時

也坡古之玩月多
在斯曾為不北言
墮遠無毫滬恩
六人之情知有如此

昔者阿道儒林一翻
藝文苑一美苑便寫
三史之法以晚一
月廿四日明於之桂

生年甲寅後建波
意海林也世宋文德
茂至正統根信
孝親法本純常

嫁於魯禁後居兒
村枝條沈六子墨

亦一九零一甲 擢

幹回才流原一末極

美信何如子有

中史風采子受夫

六何渝遂掩白極

應一更即素心之淚

之於氣更漏漸寒
起歌者奏之
力如新之得時筆
被之百之之者味如

不寫之德何以能於
後法者採一之之也
之篇一不

六月一六條後

さうさうさうさうさうさう

さうさうさうさうさうさう

さうさうさうさうさうさう

さうさうさうさうさうさう

+
+

さうさうさうさうさうさう

さうさうさうさうさうさう

さうさうさうさうさうさう

さうさうさうさうさうさう

Learn to write
the English
language

Learn to write
the English
language

花の香気は遠くまで

漂うように

花の香気は遠くまで

漂うように

花の香気は遠くまで

漂うように

花の香気は遠くまで

漂うように

社へおまのをたてて裁
糸も美ふお梅様縁
山吹色に鞠福なま
やのまのるに花ひ

ふもあつしと花ひ
あつしと花のまの裁な
も花ひとほ花ひと
たつしと花ひと

水
流
の
音
は
静
か
な
り
と
い
ふ
こ
と
が
あ
る
。

水
流
の
音
は
静
か
な
り
と
い
ふ
こ
と
が
あ
る
。

いんまのまはるのま

後免のまはるのま

権好のまはるのま

いんまのまはるのま

権好のまはるのま

後免のまはるのま

301
7

橘千蔭中秋帖

昭和十年三月十日發行

和樣手本大成 第十二卷

編輯兼發行者 下中彌三郎

印刷者 關口一男

發行所 平凡社

印刷所 共同印刷株式會社

東京小石川久堅町

(第六回配本)

(本製田村)

終